



句会ライブが開かれました

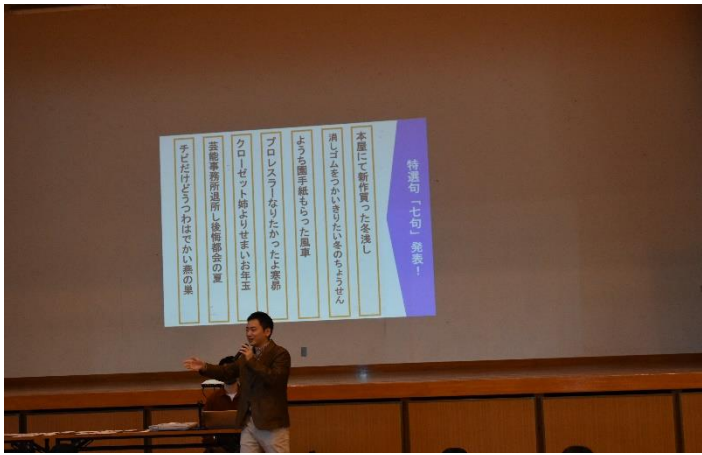
11月22日（木）に俳人の家藤正人さんをお招きし、2時間の俳句ライブを行いました。まず最初に、俳句は季語を入れることと、五七五（必ずしも十七音でなくてもよい）のリズムがあるという約束事を確認しました。楽しく俳句に接していく雰囲気を体育館内に広げてくださり、生徒たちもすぐに家藤先生に引き込まれていきました。



今回は、俳句を作る魔法の技「取り合わせの型」を教えてください、身近なできごと「俳句のたね」（十二音のフレーズ）と、季語との組み合わせでおもしろい俳句ができることを学びました。実際に、「知ってほしいこと」や「秘密にしていたこと」という2種類のお題が出され、どちらかを選択して制限時間5分間で一人一句、生徒も教師も作りました。



その後、家藤さんから選ばれた七つの俳句（作った人の名前をふせたまま）が体育館に映し出されました。家藤さんはどの俳句が好きなのか、俳句からどのようなことを感じるかなど、生徒の意見を次々に引き出され、お互いのやりとりを通して、俳句に詠まれている情景等を会場の皆で共有することができました。最後は、特選七句から一番自分が好きな俳句を選び、チャンプが決定しました。



特選七句の紹介

- ★本屋にて新作買った冬浅し
- ★消しゴムをつかいきりたい冬のちょうせん
- ★ようち園手紙もらった風車
- ★クローゼット姉よりせまいお年玉
- ★芸能事務所退所し後悔都会の夏
- ★チビだけどうつわはでかい燕の巣
- ★プロレスラーなりたかったよ冬昴

- 3年生
- 1年生
- 2年生
- 3年生
- 3年生
- 2年生
- 教諭

多くの支持を得た俳句は、2年生の作品でした。インタビューを受けた2年生さんは、以前同級生から言われた一言がうれしく心に残っていたため、それを題材に作ったと答えました。

今回の俳句ライブでは、生徒たちが作った俳句やまた、家藤さんとのやりとりを通じて、感性の豊かさや未知の力を秘めている生徒が多いことを発見しました。日常生活の一部を切り取って、自分の思いを表現する俳句を、今後も生活の中に根付かせてほしいと思います。